



TITLE:

和田垣、内田両博士の永眠を悼む

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 和田垣、内田両博士の永眠を悼む. 経済論叢 1919, 9(3): 469-470

ISSUE DATE:

1919-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127565>

RIGHT:

# 京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第三號

大正八年九月一日發行

## 論說

農家者流の經濟思想……………

法學士  
文學士

小島 祐馬

住居税の利害と高級住居税の提案……………

法學博士

神戸 正雄

經濟的行爲と道德的行爲との關係……………

法學博士

田島 錦治

社會政策上より觀たる吾國の財政……………

法學博士

小川 郷太郎

## 時事問題

同盟罷業の頻發……………

法學博士

戸田 海市

朝鮮統治の根本問題……………

法學博士

山本 美越乃

銀行の手形引受制度……………

法學士

大森 研造

## 雜錄

米價の高低と一般物價の高低……………

法學博士

河田 嗣郎

社會問題評論(二)……………

法學博士

神戸 正雄

和田垣、内田兩博士の永眠を悼む……………

法學博士

神戸 正雄

京都帝國大學經濟學部規程●經濟學部大正九年度授業擔當

和田垣、内田兩博士の  
永眠を悼む

神戸 正雄

最近、東西に於ける經濟史の兩大家たる和田垣、内田の兩博士を喪ふたことは、學界の大恨事である。和田垣先生の天才、内田博士の勤勉は蓋し得易からざる所である。和田垣先生につきては、嘗て本誌上に、同先生の大學在職二十五年祝賀に關聯して紹介したから、重ねて茲に其を繰返やさない。内田博士につきては特に一言

しなければならぬ。同博士の専門斯學の研究に於て造詣の深きことは人の一般に承認する所であり、我邦の今日までに出でた所の第一人者といふて良からう。恐らくは日本經濟史といふ方面では世界の隨一人であつたであらう。――但さういふては少し過賞の誹を免れないかも知れない外國では内田博士よりも福田博士の方が

一層多く日本經濟史家として知られて居る――特に其研究の態度は眞面目で、綿密で、客觀的で、一文を草し一章を綴るに一字一句を忽にせられなかつたのは、同博士の性質の發露であらうが、後進者の爲めに良き模範を垂れられたものである。斯くて博士の指導により學界に既に相當の地歩を占めた人に西田文學士、本庄法學士等がある。多分、此兩君などが、同博士の衣鉢を繼いで大成さるゝであらう。博士の肉體は死すとも、博士の精神は永く此等の後繼者と博士の遺著とに依つて生存さるるであらう。たゞ困つたのは我經濟學部で、我經濟學部にては今年度には同博士に日本經濟史の講義の擔當を願

うことにして、既に同博士の快諾を得て居つたのに、其齟齬を來たすことになつたのは、甚だ遺憾とする所である。尙ほ博士の遺著としては諸雜誌に現はれたる論文の外、經濟史總論、日本近世史、近世の日本等を擧ぐべきであらう。